

- 問1 沖縄県などが含まれる南西諸島の伝統的な家屋には、敷地の周囲に石垣をめぐらせたり、屋根瓦の継ぎ目を白い漆喰（しっくい）で固めたりする工夫が見られます。このような工夫がなされている理由として、地域の自然環境をふまえて説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2020年 和歌山県公立入試 類似）
1. 夏の日差しが非常に強いため、石垣によって日陰を作り、室内の温度上昇を抑えるため
 2. 台風の通り道にあたるため、激しい強風によって家屋や屋根瓦が飛ばされるのを防ぐため
 3. 火山活動が活発な地域であり、降灰による屋根の崩落や生活への影響を防ぐため
 4. 冬に吹きつける冷たい北西の季節風による室温の低下を防ぐため
- 問2 明治時代に官営の製鉄所が設立されたことで重化学工業が発展した、福岡県北部の地域に関する記述として最も適切なものを次の中から選びなさい。（2022年 鹿児島県公立入試 類似）
1. 豊かな水資源と広大な土地を活かして、自動車の生産額が全国1位となるなど、日本最大の工業地帯の中核を担っている。
 2. 水はけの良い扇状地が広がる地形を活かして、りんごの栽培が盛んに行われており、全国でも有数の生産量を誇っている。
 3. 明治時代からの工業技術の集積を活かし、廃棄物を資源として再利用するエコタウン事業やリサイクル産業が盛んに行われている。
 4. 標高の高い地域の冷涼な気候を活かし、夏から秋にかけて出荷されるレタスやキャベツなどの高原野菜の生産が盛んである。
- 問3 筑紫平野において、同一の耕地で一年のうちに米と麦を交互に栽培する「二毛作」を可能にしている背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 京都府公立入試 類似）
1. 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。
 2. 化学肥料や大規模な農業機械を導入することで、土壌の養分を短期間で回復させるため。
 3. 夏場に発生しやすい台風の被害を避けるため、収穫時期を大幅に早める必要があるため。
 4. 海外からの輸入農産物に対抗するため、米の生産を休止して小麦の専門農家へ転換するため。
- 問4 宮崎県では、農業産出額の約3分の2を畜産が占めています。このように宮崎県で肉用牛、豚、鶏などの飼育が盛んになった背景として、土地の性質に触れた説明として最も適切なものを選びなさい。（2024年 茨城県公立入試 類似）
1. 冬でも温暖な気候を利用して、家畜の飼料となる穀物を二毛作で大量に生産できる環境があったため。
 2. 平野部が少なく耕地面積が限られているため、狭い土地でも効率よく収益が上がる畜産業に特化した。
 3. シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。
 4. 大消費地である東京から遠いため、野菜よりも保存や加工しやすい畜産物の生産に力を入れた。
- 問5 福岡県の工業は、かつては北九州工業地帯を中心とした鉄鋼業や化学工業などの重化学工業が盛んでしたが、1970年代の石油危機以降、産業構造に大きな変化が見られました。この変化の内容と背景について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 東京都公立入試 類似）
1. 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。
 2. 1980年以降、製造業が県外の愛知県や神奈川県へ流出したため、工業地帯を縮小し、九州地方の特産品を活かした農業中心の産業構造へと転換した。
 3. 環境問題への対策として沿岸部の工場をすべて閉鎖し、福岡市を中心とした商業と観光業のみに特化する政策をとったことで、工業出荷額は減少傾向にある。
 4. 石油危機を契機に北九州工業地帯の鉄鋼業をさらに強化し、海外からの原料輸入に頼らない自給自足の体制を整えることで、製造品出荷額を維持した。
- 問6 鹿児島県に広く分布するシラス台地において、その自然条件を背景に発展したこの地域の農業の特色として最も適切なものはどれですか。（2015年 兵庫県公立入試 類似）
1. 土地が低く水がたまりやすいため、大規模な排水設備を整えることで、日本有数の米どころとして水田単作地帯となった。
 2. 一年を通じて温暖な気候を利用して、平坦な地形を活かして、冬でも雪が降らないことを前提とした稲の二期作が行われている。
 3. 地盤が非常に強固で肥沃な土壌であるため、重機を用いた大規模な小麦栽培と、大都市向けの近郊農業が中心となっている。
 4. 火山灰が堆積した地層は水持ちが悪いため、稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、および肉用牛などの畜産が発展した。
- 問7 ある県の農業統計において、第1次産業の就業人口割合が高く、農業産出額の上位3品目を肉用牛、豚、ブロイラーが占めている地域があります。この県における農業や土地利用の説明として、最も適切なものはどれですか。（2018年 東京都公立入試 類似）
1. 生乳や乳製品の生産額が全国1位であり、冷涼な気候を活かした酪農が行われている。
 2. 耕地面積に占める畑の割合が極めて高く、広大な土地を活用した畜産が非常に盛んである。
 3. 米の産出額が最も多く、広大な平野を利用した単作地帯が形成されている。
 4. 近郊農業が発達しており、鶏卵や野菜などの生産が産出額の大部分を占めている。
- 問8 日本の諸地域のうち、強い日差しを避けるための深い軒（のき）や、強風対策として家を囲む石垣、さらに屋根瓦を漆喰（しっくい）で固めるといった、独自の気候条件に適応した伝統的な家屋の工夫が最もよく見られる地域はどこですか。（2023年 神奈川県公立入試 類似）
1. 沖縄県
 2. 岐阜県
 3. 石川県
 4. 北海道
- 問9 九州地方の大部分では、活発な火山活動の恩恵を受けた観光が盛んです。市内各所から激しく湯煙が立ち上がる景観が「地獄」と呼ばれ観光名所となっている地域において、その高熱の蒸気を直接利用して食材を加熱する伝統的な調理文化を何といいますか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
1. かんだき
 2. 地獄蒸し
 3. 石焼き
 4. 蒸し風呂
- 問10 火山の噴火による降灰の広がり方が季節によって異なる地域において、8月には火口から北西方向の市街地側に、2月には南東方向の海側に多く灰が降る現象が見られます。この背景にある「季節風」と降灰の関係について、正しい記述を選びなさい。（2020年 群馬県公立入試 類似）
1. 夏は北西からの季節風が吹くため、火山灰が火口の南東側に運ばれやすくなる
 2. 夏は南東からの季節風が吹くため、火山灰が火口の北西側に運ばれやすくなる
 3. 冬は北西からの季節風が吹くため、火山灰が火口の北西側に運ばれやすくなる
 4. 冬は南東からの季節風が吹くため、火山灰が火口の南東側に運ばれやすくなる
- 問11 日本の九州地方に位置するある県では、農業産出額の構成において「米」や「野菜」と比較して「畜産」が占める割合が非常に高く、全体の約半分に達するという特色があります。肉用牛、豚、鶏の飼育が盛んなこの県はどこですか。（2018年 岩手県公立入試 類似）
1. 埼玉県
 2. 宮崎県
 3. 青森県
 4. 新潟県
- 問12 九州地方南部に広がる「シラス台地」と呼ばれる火山灰の台地において、大規模な稲作よりも豚や鶏などの畜産業が盛んに行われてきた理由として、最も適切なものはどれですか。（2016年 高知県公立入試 類似）
1. シラス台地は標高が高く、夏季の気温が稲の成長に必要な水準まで上がらないため
 2. 台地の土壌に塩分が多く含まれており、塩害に弱い稲の栽培が不可能であったため
 3. 大規模な灌漑設備を整えるよりも、家畜の餌となるトウモロコシの栽培の方が容易であったため
 4. 火山灰が堆積した地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難であったため

答え合わせ・解説

問1	答え 2 台風の通り道にあたるため、激しい強風によって家屋や屋根瓦が飛ばされるのを防ぐため	南西諸島は地理的に「台風の道」とも呼ばれる進路上に位置しており、毎年のように強い暴風雨に見舞われます。そのため、民家の周囲に防風壁としての石垣を築いたり、重い漆喰で屋根瓦を固定したりすることで、強風による被害を最小限に抑える建築様式が発達しました。選択肢にある積雪や火山灰への対策は、他の地域（豪雪地帯や火山周辺）で見られる工夫です。
問2	答え 3 明治時代からの工業技術の集積を活かし、廃棄物を資源として再利用するエコタウン事業やリサイクル産業が盛んに行われている。	北九州工業地帯は、1901年に官営八幡製鉄所が操業を開始したことで、石炭や鉄鉱石の入手しやすさを背景に発展しました。かつては深刻な公害問題を経験しましたが、その克服過程で培った環境技術や、長年の工業集積で得たノウハウを再利用し、現在は「エコタウン」として、家電や自動車などのリサイクル産業が活発に行われているのが大きな特徴です。
問3	答え 1 冬でも雪が少なく温暖な気候を活かし、土地を休ませることなく効率的に活用するため。	二毛作が行われる大きな理由は、限られた耕地からより多くの収益を得るための土地の高度利用にあります。九州北部の筑紫平野は、冬でも比較的温暖で積雪が少ないため、水稻の収穫後に麦を育てる「裏作」が可能となります。クリーク（人工の水路）が発達し、水管理の技術が向上したことも、このような集約的な農業を支える要因となっています。
問4	答え 3 シラス台地が広がり水持ちが悪く稲作に適さない土地が多いため、広大な土地を活用した畜産が発展した。	宮崎県を含む南九州には、火山の噴出物が積み重なってできたシラス台地が広がっています。シラス台地は水はけが良すぎて稲作には不向きであったため、古くから畑作や、広大な土地を必要とする畜産業が発展しました。現在では、宮崎県は肉用牛、豚、ブロイラー（鶏）のいずれも全国有数の産出額を誇る「畜産王国」となっています。
問5	答え 1 石油危機後の不況をきっかけに、従来の沿岸部における重化学工業から、広い用地が確保しやすい内陸部や県東部を中心とした自動車工業へと主力産業が移行した。	福岡県では、官営八幡製鉄所の操業以来、北九州市の沿岸部を中心に鉄鋼業などの重化学工業が発展してきました。しかし、1970年代の石油危機による不況を境に、産業構造の転換が進みました。広大な用地や労働力を求めて、内陸部や県東部に自動車工場が進出したことで、加工組立型の工業が成長し、県全体の産業を支える新たな柱となりました。
問6	答え 4 火山灰が堆積した地層は水持ちが悪いため、稲作よりもサツマイモや茶などの畑作、および肉用牛などの畜産が発展した。	シラス台地は火山噴出物からなる地層で、水が地下に浸透しやすく、水田に必要な水を保持しにくいという課題がありました。この不利な土地条件を克服するため、水分が少なくても育つサツマイモや茶の栽培、さらに広大な台地を活かして豚、鶏、肉用牛を育てる畜産業がこの地域の主要な産業として確立されました。
問7	答え 2 耕地面積に占める畑の割合が極めて高く、広大な土地を活用した畜産が非常に盛んである。	鹿児島県は、肉用牛、豚、ブロイラーの飼育頭羽数がいずれも全国トップクラスであり、農業産出額の多くを畜産が占めています。これは、シラス台地の特性上、水田よりも畑（畑の割合は約68%）としての利用が優先された歴史的背景と深く関わっています。選択肢にある生乳（酪農）は北海道、米の単作地帯は東北地方などの特徴です。
問8	答え 1 沖縄県	南西諸島に位置する沖縄県では、高温多湿で台風が多いという厳しい気候条件に対応した住居の工夫が受け継がれてきました。石垣には地元のサンゴ礁からなる石灰岩が使われることが多く、周囲に植えられるフクギは防風・防潮の効果が高い樹木として知られています。これらは、積雪対策を重視する北海道や、合掌造りが見られる岐阜県の白川郷などとは対照的な、地域特有の景観を形成しています。
問9	答え 2 地獄蒸し	大分県の別府温泉などでは、火山活動による高温の蒸気が各所で噴出しています。この自然エネルギーを生活に活用した知恵が「地獄蒸し」であり、温泉の熱を利用して野菜や魚介類を蒸し上げる独特の食文化は、この地域を象徴する観光資源にもなっています。
問10	答え 2 夏は南東からの季節風が吹くため、火山灰が火口の北西側に運ばれやすくなる	季節風（モンスーン）は、夏は海洋から大陸に向かって（南東から北西へ）、冬は大陸から海洋に向かって（北西から南東へ）吹くという性質があります。この風向きの影響で、火口から放出された火山灰は、夏には北西に位置する市街地へ運ばれ、冬には南東方向の海側へと流されることになります。この気候特性は、その地域の生活や防災対策に大きな影響を与えています。
問11	答え 2 宮崎県	九州地方南部に位置する宮崎県は、シラス台地などの火山灰層が広がる地形的制約もあり、古くから広大な土地を活かした畜産業が発展してきました。全国でも有数の農業産出額を誇り、特に肉用牛や豚、ブロイラー（鶏）の生産で全国トップクラスのシェアを占めています。他の選択肢について、新潟県は米、青森県は果実（りんご）、埼玉県は近郊農業による野菜の産出額割合が高いのが特徴です。
問12	答え 4 火山灰が堆積した地層は水はけが良すぎて、稲作に必要な水を保持することが困難であったため	九州南部に広がるシラス台地は、過去の火山活動によって噴出した火砕流堆積物からなる台地です。この土壌は水分を保持しにくい「水はけが良い」という性質を持っており、水田に水を溜めることが難しいため、古くから稲作には不向きとされてきました。その結果、水が少なくても育つサツマイモなどの畑作や、広大な土地を利用した豚・鶏などの畜産業が発展しました。